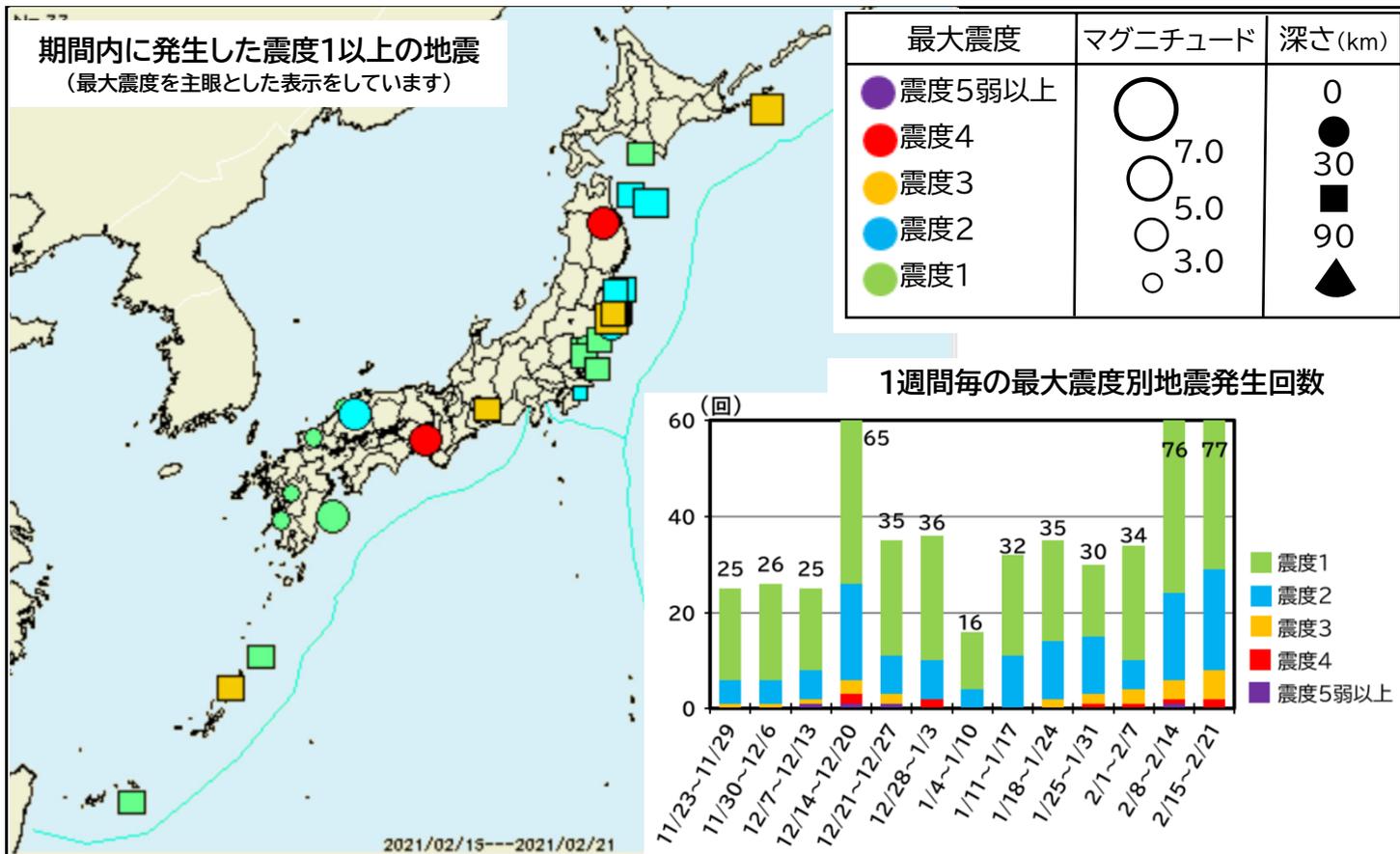


この期間の最大震度は4(和歌山県北部、岩手県内陸北部)

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が77回発生。最大震度は4
- 15日13時28分に和歌山県北部で発生した地震(M4.0、深さ4km)により、和歌山市で震度4を観測したほか、近畿・四国地方で震度3~1を観測。この地震は地殻内で発生した逆断層型の地震。この付近は、地震活動の活発な領域で震度1以上を観測する地震が数多く発生しており、1919年1月以降の地震活動をみると、時々M5程度の地震も発生している。1930年2月11日にM5.3(最大震度4)の地震では負傷者1人、家屋破損5棟などの被害があった(日本被害地震総覧)。
- 19日18時11分に岩手県内陸北部で発生した地震(M4.2、深さ7km)により岩手県二戸市で震度4を観測したほか、岩手、青森、秋田県で震度2~1を観測。この地震は地殻内で発生したもの。この付近は地震活動が活発な領域で、M4を超える地震も時々発生している。

トピックス

- 13日23時07分に発生した福島県沖の地震
- 21日までに震度1以上を観測した余震は図1のとおり。

最大震度	6強	4	3	2	1	合計
回数	1	1	5	22	55	84

- 総務省消防庁発表資料によると、家屋の全・半壊被害は、震源に近い福島県浜通り地方より、震源から離れた鏡石町などの中通り地方で多い。
- この原因の一つとして、地震の周期(地面が揺れる間隔)が関連していると考えられます。
- 公開されている地震観測データのうち、浜通り地方の例として「南相馬市」、中通り地方の例として「郡山市」、それぞれの地点で観測された周期を表した図2を見ると違いが分かります。
- 浜通り地方(南相馬市)では、建物に大きな被害を引き起こす、ゆっくりとした1~2秒の揺れが小さく、小さな構造物等に被害を与える「ガタガタと言った」0.5秒程度の周期の短い揺れが大きかった。
- 一方、中通り地方(郡山市)では1秒前後の揺れが大きかった。
- 詳しい解析が必要ですが、このことが原因の一つと考えられます。

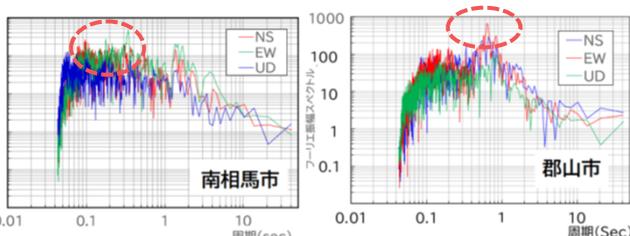
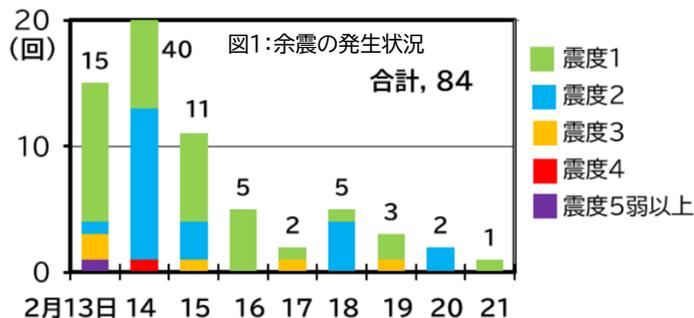


図2:地震動の周期。赤破線部分が卓越した周期